

相関文化論専攻 博士課程後期

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 多様な文化領域に対する広汎な知識と、研究テーマに関するより高い次元の専門知識を有している人。
- AP2 文化の相関性と相対性に立脚した、論理的な思考に基づく、事象の分析と説明ができる人。
- AP3 従来の学問領域に拘泥しない、新視点の研究を試みている人。
- AP4 綿密な計画を立て、研究に必要な言語を駆使して調査・研究活動を行い、研究成果を論理的にまとめて発表することができる人。

上記 AP1~AP3 は口述試験及び提出書類によって、AP4 は語学試験（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語（古文）から出願時に選択）によって評価する。